

弓削商船高等専門学校数理・データサイエンス・A I教育プログラム
令和7年度自己点検・評価結果

会議名称：自己点検・評価委員会

評価日時：令和8年3月18日（水）

開催場所：弓削商船高等専門学校

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・A I教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の実施要項細目による項目

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	B	本教育プログラムは、各学科の必修科目で構成されているため、学生全員が履修する。 2025年度の該当科目については途中退学者及び原級留置者を除き、全員が修得した。
学修成果	B	プログラムを構成する科目について、成績評価の平均点は良好であった。また、授業評価アンケートを行っており、「Q11.学習内容を理解し興味をもった」のアンケート項目を分析することで学生の理解度を把握しているが、ほとんどの科目が4以上（5段階）であり、よく理解できていると言える。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	授業評価アンケートを行っており、「Q11.学習内容を理解し興味をもった」のアンケート項目を分析することで学生の理解度を把握しているが、ほとんどの科目が4以上（5段階）であり、よく理解できていると言える。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	B	本教育プログラムは必修科目で構成されている。そのため、本校に入学するすべての学生が教育プログラムの履修者となり、履修を促すための特別な推奨を行っていない。ただし、授業評価アンケートを通じて、授業における学生の興味関心の確認は必ず行っている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	本教育プログラムは必修科目で構成されている。そのため、本校に入学するすべての学生が教育プログラムの履修者となり、履修率100%である。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	令和8年3月末時点で電子機械工学科38名、情報工学科38名が教育プログラムを修了した。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	—	毎年度にアンケート等を実施していない。
数理・データサイエンス・A Iを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	本教育プログラムに関わる科目において、代表的な事例を紹介しつつ、その利便性を講義したり、社会におけるデータ・A I活用・社会で起きている変化を講義するなど、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解するよう取り組んでいる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	授業評価アンケートを行い、教員へフィードバックを行い、教務委員会において分析することで、より「分かりやすい」授業とするような体制を取っている。

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・A I教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の実施要項細目による項目

自己点検・評価の視点	内部評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	B	2025年度の商船学科該当科目および電子機械工学科・情報工学科2～4年次の該当科目については必修科目のため、途中退学者及び原級留置者を除き、全員が修得した。電子機械工学科・情報工学科5年次の該当科目については選択科目のため、電子機械工学科1名、情報工学科38名が修得した。
学修成果	B	プログラムを構成する科目について、成績評価の平均点は良好であった。また、授業評価アンケートを行っており、「Q11.学習内容を理解し興味をもった」のアンケート項目を分析することで学生の理解度を把握しているが、ほとんどの科目が4以上（5段階）であり、よく理解できていると言える。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	授業評価アンケートを行っており、「Q11.学習内容を理解し興味をもった」のアンケート項目を分析することで学生の理解度を把握しているが、ほとんどの科目が4以上（5段階）であり、よく理解できていると言える。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	B	電子機械工学科5年「情報処理4」以外科目は必修科目で構成されている。授業評価アンケートを通じて、授業における学生の興味関心の確認は必ず行っている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	今年度5年生が最初の本教育プログラムの修了生となる。5年次の科目は選択科目で構成されているため、電子機械工学科では1名のみの修了となったが、情報工学科は5年生38名全員が5年次の該当科目を履修し、本教育プログラムを修了した。次年度以降も引き続き、各学科ごとに履修を促し、本プログラムの周知を行う。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	令和8年3月末時点で電子機械工学科1名、情報工学科38名が教育プログラムを修了した。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	—	毎年度にアンケート等を実施していない。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	本教育プログラムに関わる科目において、代表的な事例を紹介しつつ、その利便性を講義したり、社会におけるデータ・AI利活用・社会で起きている変化を講義するなど、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解するよう取り組んでいる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	授業評価アンケートを行い、教員へフィードバックを行い、教務委員会において分析することで、より「分かりやすい」授業とするような体制を取っている。

A：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成した。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。